

教育講演会から

「過保護は、虐待の一つです。」

子どもに成功体験を積ませることと同じく、思い切ってやらせ、失敗を経験させることも大切なことです。



人権集会

笑顔の絶えない
楽しい八代小学校に



教頭
松原隆廣



十二月十七日（木）、児童会主催による人権集会が体育館で行われました。人権月間を通して、各学級で真剣に学習に取り組みできたことを学年で心を込めて発表しました。
へ一年生へ「チクチク言葉をやめて、ふわふわ言葉で八代小をにこにこ学校にする。へ二年生へ「友だちを分けへだてせず、なかまとしを助け合う。へ三年生へ「命の重さを知り、命をいただいていないことに感謝する。へ四年生へ「人はロボットではない。差別をなくすために、なかまとしてつながる。へ五年生へ「差別をしない、差別に負けない、差別を許さない強さを持つ。へ六年生へ「人の手で作られた差別を、自分たちの手でなくす。
このように子どもたちは力強く決意をしました。「笑顔のたえない楽しい八代小（本校人権宣言より）」にするために、きつと行動で示してくれると思います。集会の最後は、「友だちはいいいもんだ」を全員で心を一つにして合唱し、心温まる集会となりました。

命の教育講演会 脳を育む生活リズム

十二月十八日（金）の夜、一中校区4校のPTA主催による「命の教育講演会」が八代モ二一ホールでありました。熊本大学医学部附属病院の上土井貴子先生を講師に迎え、この講演会では、一時間三十分があつという間の講演会でした。
人間の脳が大きな発達を遂げるゴールデンポイントには、小学校入学前の就学前の時期と思春期にあり、未熟な子どもをこの時期にどのような環境で育てるかが、遺伝による影響より大きいという話題から、講演はスタートしました。
私は、次の内容が、特に印象に残りました。
・ 小学校の時期は、勉強への向き合い方を学ぶ時期であり、「やった。出来た。」という達成感を味わわせることが大切である。
・ 子どもに〇〇してほしいなら、親が〇〇を樂しもうにしている姿を見せると効果的。
・ 社会性を持った脳を育てるには、セロトニンという脳内物質の分泌が重要であり、安心感や周りから認められることが、その分泌に大きく影響する。
・ セロトニンや睡眠を司るメラトニンといった脳内物質は、体内時計に大きく左右され、朝から朝日を浴びることが、その時計を正しく動かすことにつながる。夜遅いブルーライト（ゲーム機やスマホから発せられる）は、それを狂わせることにつながる。
・ セロトニンの分泌に必要な栄養素は、食事からとることが大切であり、特に朝食が重要である。

